

平成 26 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査目的	文化庁が平成 7 年度から毎年実施しているもので、日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。		
調査対象	全国 16 歳以上の男女		
調査時期	平成 27 年 1 月～ 2 月		
調査方法	一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施		
調査結果	調査対象総数	3, 493	人
	有効回答数 (率)	1, 942	人 (55. 6 %)

目 次

1 社会や家庭における言葉遣いについて

- ◆ 今の国語は乱れていると思うか。……………<問 1>… 4
- ◆ 家庭で言葉遣いについて注意されたか。……………<問 2>… 4
- ◆ 言葉遣いを誰から注意されたか。……………<問 2 付>… 4
- ◆ 家庭で受けた言葉のしつけについて、現在どう思うか。……………<問 3>… 5
- ◆ 中学生・高校生の話を聞いて、言葉遣いが乱れていると感じるか。……………<問 4>… 5
- ◆ 小学生の言葉遣いに注意を与えるべき人は誰だと思うか。……………<問 5>… 5
- ◆ 子供の言葉遣いに与える影響が大きい人やものはどれだと思うか。……………<問 6>… 6

2 外国人に対する日本語教育について

- ◆ 日本に在住する外国人は、どの程度日本語の会話ができるといいと思うか。また、どの程度日本語の読み書きができるといいと思うか。……………<問 9, 10>… 7
- ◆ 日本に在住する外国人が日本語能力を身に付けるために、どのような取組が必要だと思うか。……………<問 11>… 7

3 手書き文字の字形と印刷文字の字形について

- ◆ 日常生活において、文字を手書きする機会があるか。…………… <問 14>… 8
- ◆ 年賀状などにおいて、印刷されたものと手書きが加えられたものとはどちらが良いと思うか。……………<問 15>… 8
- ◆ 文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきであると思うか。……………<問 16>… 8
- ◆ 手書き文字の漢字の違いについてどう感じるか。……………<問 17>… 9
- ◆ 手書き文字の漢字の正誤についてどう考えるか。……………<問 19>… 11
- ◆ 印刷文字と手書き文字の形の違いを知っているか。……………<問 20>… 12
- ◆ 手書きする際に、印刷文字の形のとおりを書く必要がないことを知っているか。…<問 21>… 12

4 言い方の使用頻度について

- ◆ 使うことのある言い方か。……………<問 22>… 13

5 新しい複合語、省略語について

- ◆ 聞いたことのある言い方か、また使うことのある言い方か。……………<問 23>… 16

6 慣用句等の意味・言い方について

- ◆ どちらの意味だと思うか。……………<問 24>…18
- ◆ どちらの言い方だと思うか。……………<問 25>…20

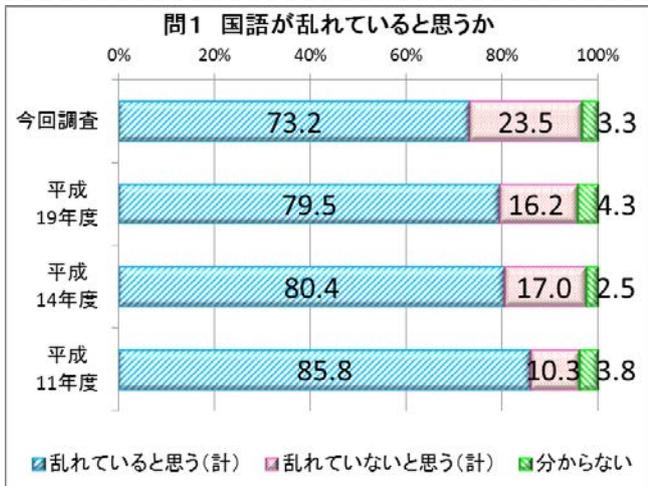
備 考 百分比は各問いの回答者数を 100%として算出し、小数点第 2 位を四捨五入したため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数点第 1 位を四捨五入して示した。

1 社会や家庭における言葉遣いについて

* 報告書のページを表す。

今の国語は乱れていると思うか。〈問1〉 (P3*)

— 「乱れていると思う(計)」と、7割以上が回答。 —



〔全体・過去の調査との比較〕

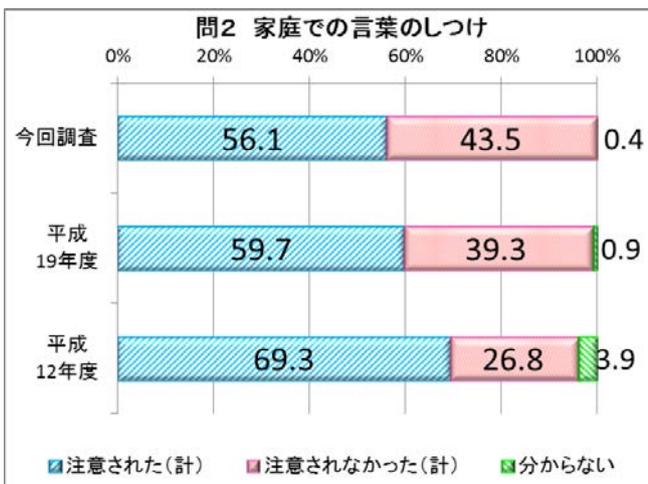
ふだんの生活の中で接している言葉から考えて、今の国語は乱れていると思うか、それとも、乱れていないと思うかを尋ねた。

「乱れていると思う(計)」の割合は73.2%となっている。一方、「乱れていないと思う(計)」の割合は、23.5%となっている。

過去の調査結果(平成11, 14, 19年度)と比較すると、「乱れていると思う(計)」は減少傾向にあり、「乱れていないと思う(計)」は増加傾向にある。

家庭で言葉遣いについて注意されたか。〈問2〉 (P9)

— 「注意されなかった(計)」は増加傾向にあり、今回調査では4割以上。 —



〔全体・過去の調査との比較〕

小さい時から小学生ぐらいまでの頃に、家庭で言葉遣いについて注意されたか、それとも、注意されなかったかを尋ねた。

「注意された(計)」(56.1%)の割合は、「注意されなかった(計)」(43.5%)の割合を13ポイント上回っている。

過去の調査結果(平成12, 19年度)と比較すると、「注意された(計)」は減少傾向にあり、「注意されなかった(計)」は増加傾向にある。

言葉遣いを誰から注意されたか。〈問2付〉 (P9)

— 「母親」が最も高く61.6%、次いで「父親」が27.4%。 —

(数字は%)

母親	女性	男性	父親	女性	男性	祖母	女性	男性	祖父	女性	男性
	61.6	64.7		57.8	27.4		24.3	31.3		6.0	6.4

〔全体・性別〕

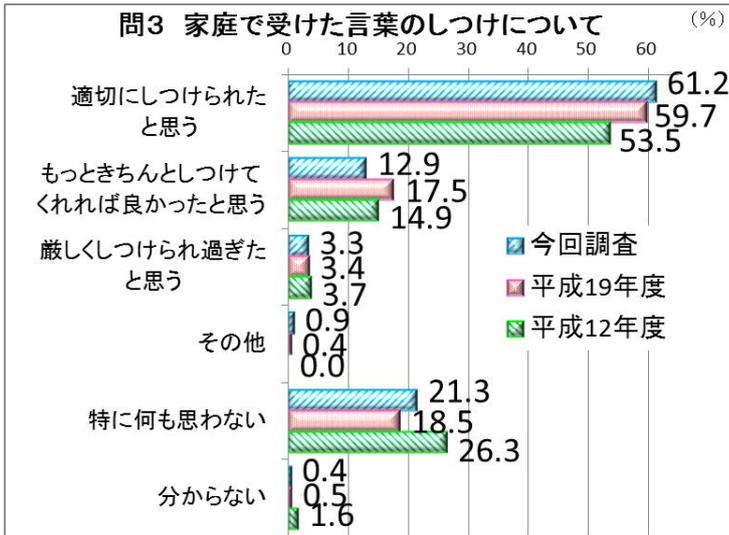
家庭で言葉遣いを「注意された」と答えた人(全体の56.1%)に、主に誰に注意されたかを尋ねた。

「母親」が61.6%で最も高く、次いで「父親」(27.4%)、祖母(6.0%)、祖父(2.6%)となっている。

性別に見ると、「母親」に注意されたと回答した女性(64.7%)は、男性(57.8)を7ポイント上回っている。また、「父親」に注意されたと回答した男性(31.3%)は、女性(24.3%)を7ポイント上回っている。

家庭で受けた言葉のしつけについて、現在どう思うか。〈問3〉（P13）

—「適切にしつけられたと思う」の割合は、増加傾向。—



〔全体・過去の調査との比較〕

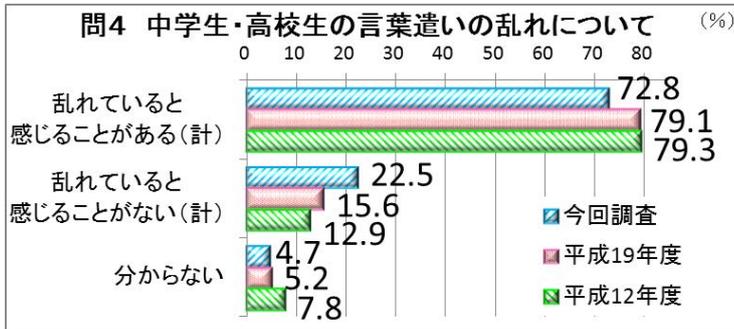
自分が家庭で受けた言葉のしつけについて、現在どう思っているかを尋ねた。（自分の気持ちに近いものを一つ回答。）

「適切にしつけられたと思う」が61.2%、「もっときちんとしつけてくれれば良かったと思う」が12.9%となっている。

過去の調査結果（平成12、19年度）と比較すると、「適切にしつけられたと思う」は増加傾向にある。「もっときちんとしつけてくれれば良かったと思う」は平成12年度から19年度に3ポイント増加したが、今回調査では5ポイント減少している。

中学生・高校生の話を聞いて、言葉遣いが乱れていると感じるか。〈問4〉（P15）

—「乱れていると感じることがない（計）」の割合は、増加傾向。—



〔全体・過去の調査との比較〕

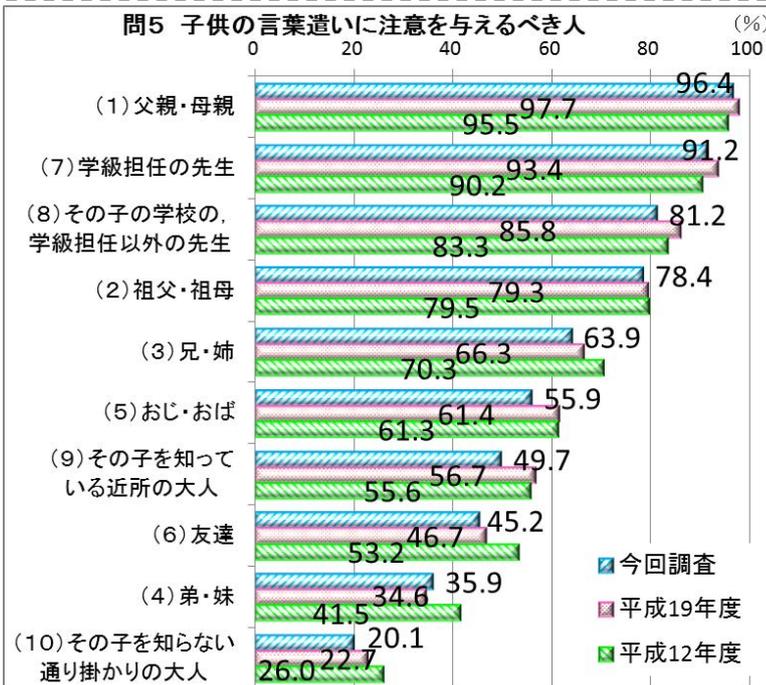
周りにいる中学生や高校生の話を聞いて、言葉遣いが乱れていると感じることがあるか、それとも、感じることがないかを尋ねた。

言葉遣いが「乱れていると感じることがある（計）」は、72.8%となっている。一方、言葉遣いが「乱れていると感じることがない（計）」は、22.5%となっている。

過去の調査結果（平成12、19年度）と比較すると、「乱れていると感じることがある（計）」は減少傾向にあり、「乱れていると感じることがない（計）」は増加傾向にある。

小学生の言葉遣いに注意を与えるべき人は誰だと思うか。〈問5〉（P20）

—「父親・母親」が最も高く、次いで「学級担任の先生」。—



〔全体・過去の調査との比較〕

近くにいる小学生が友達に対して乱暴で聞き苦しい言葉遣いをしているとき、その子と様々な関係にある人が注意を与えるべきだと思うか、それともその必要はないと思うかをそれぞれ尋ねた。

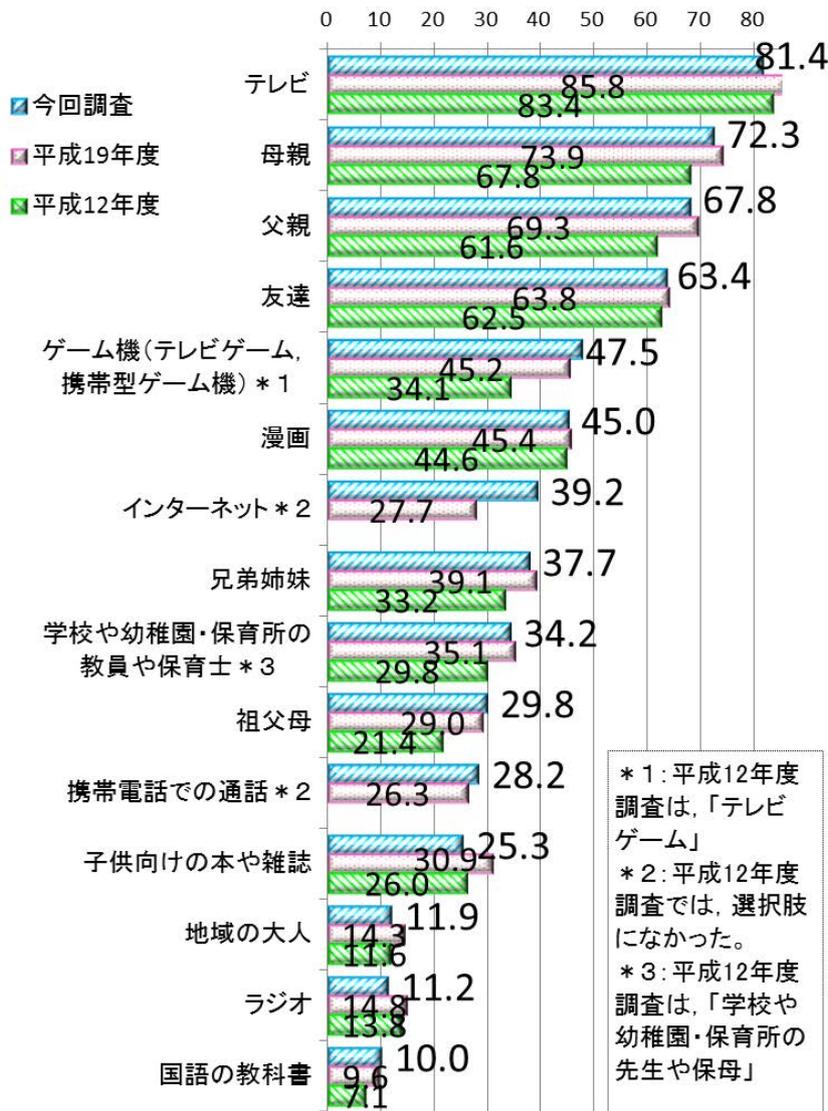
「注意すべきだ」の割合は、「(1) 父親・母親」が96.4%で最も高く、次いで「(7) 学級担任の先生」(91.2%)、「(8) その子の学校の、学級担任以外の先生」(81.2%)となっている。

過去の調査結果（平成12、19年度）と比較すると、「注意すべきだ」の割合は、「(5) おじ・おば」、「(8) その子の学校の、学級担任以外の先生」、「(9) その子を知っている近所の大人」については平成19年度から今回調査で5～7ポイント減少している。

子供の言葉遣いに与える影響が大きい人やものはどれだと思うか。〈問6〉（P24）

—「テレビ」が最も高く、次いで「母親」，「父親」と続く。—

問6 子供の言葉遣いに与える影響が大きい人やもの (%)



〔全体・過去の調査との比較〕

子供の言葉遣いに与える影響が大きい人やものはどれだと思うかを尋ねた。（選択肢の中から幾つでも回答。）

「テレビ」が81.4%で最も高く、次いで「母親」（72.3%）となっている。「父親」（67.8%）、「友達」（63.4%）が6割台と続いている。以下、「ゲーム機（テレビゲーム，携帯型ゲーム機）」（47.5%）、「漫画」（45.0%）が4割台，「インターネット」（39.2%）、「兄弟姉妹」（37.7%）、「学校や幼稚園・保育所の教員や保育士」（34.2%）が3割台，「祖父母」（29.8%）、「携帯電話での通話」（28.2%）、「子供向けの本や雑誌」（25.3%）が2割台となっている。

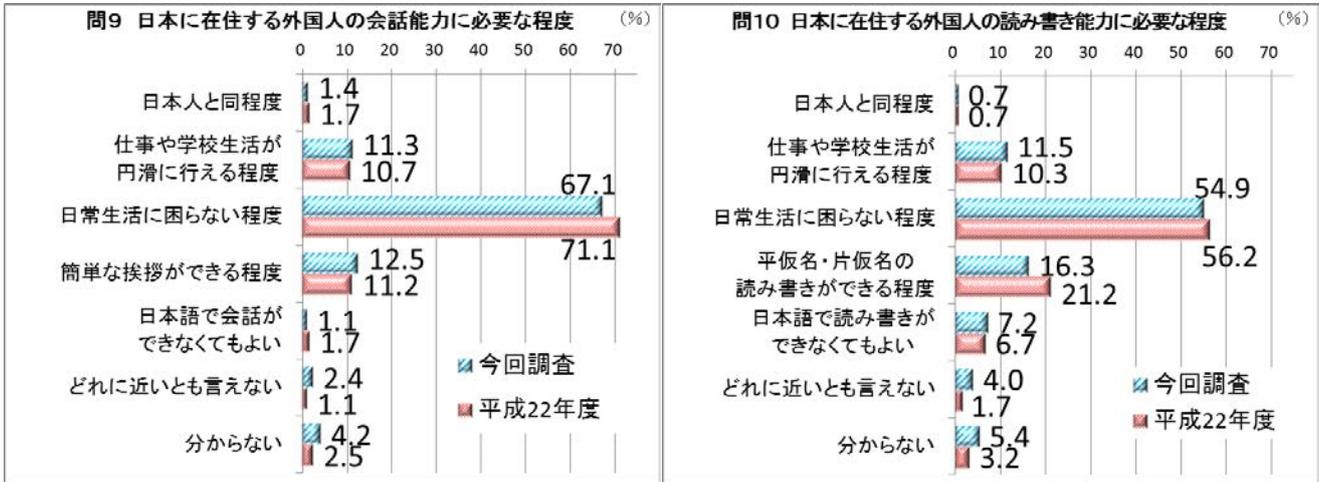
過去の調査結果（平成12，19年度）と比較すると，平成19年度から今回調査では，「インターネット」が12ポイント増加し，「子供向けの本や雑誌」が6ポイント，「テレビ」が4ポイント減少している。

*1:平成12年度調査は、「テレビゲーム」
*2:平成12年度調査では，選択肢になかった。
*3:平成12年度調査は，「学校や幼稚園・保育所の先生や保母」

2 外国人に対する日本語教育について

日本に在住する外国人は、どの程度日本語の会話ができるか。また、どの程度日本語の読み書きができるか。＜問9、10＞（P35）

—「日常生活に困らない程度」が、それぞれ最も高い。—



〔全体・過去の調査との比較〕

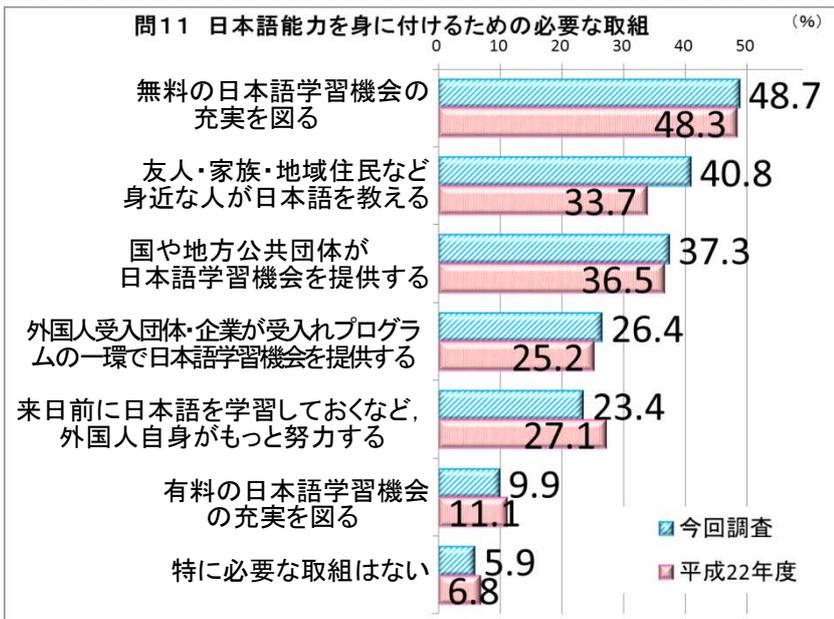
問9では、日本に住んでいる外国人はどの程度日本語の会話ができるか、問10では、日本に住んでいる外国人はどの程度日本語の読み書きができるかというのを尋ねた。

「日常生活に困らない程度」が、会話能力については67.1%、読み書き能力については54.9%と、それぞれ最も高くなっている。

過去の調査結果（平成22年度）と比較すると、読み書き能力について「平仮名・片仮名の読み書きができる程度」は5ポイント減少しているが、「仕事や学校生活が円滑に行える程度」は1ポイント増加している。また、「どれに近いかも言えない」、「分からない」は、会話能力についても読み書き能力についても、増加している。

日本に在住する外国人が日本語能力を身に付けるために、どのような取組が必要だと思うか。＜問11＞（P39）

—「無料の日本語学習機会の充実を図る」が、5割弱と最も高い。—



〔全体・過去の調査との比較〕

日本に住んでいる外国人が日本語能力を身に付けるために、どのような取組が必要だと思うかを尋ねた。（選択肢の中から幾つでも回答。）

「無料の日本語学習機会の充実を図る」が48.7%と最も高く、次いで、「友人・家族・地域住民など身近な人が日本語を教える」（40.8%）、「国や地方公共団体が日本語学習機会を提供する」（37.3%）が4割前後となっている。

過去の調査結果（平成22年度）と比較すると、「無料の日本語学習機会の充実を図る」が、今回調査（48.7%）でも平成22年度調査（48.3%）でも、それぞれ最も高い割合となっている。また、「来日前に日本語を学習しておくなど、外国人自身ももっと努力する」の割合は4ポイント減少している。

割合となっている。また、「来日前に日本語を学習しておくなど、外国人自身ももっと努力する」の割合は4ポイント減少している。

3 手書き文字の字形と印刷文字の字形について

日常生活において、文字を手書きする機会があるか。〈問14〉(P49)

—「ある(計)」が7割強。「ない(計)」が3割弱。—

(数字は%)

ある(計)		ない(計)		分からない
72.7		27.3		
よくある	時々ある	余りない	ない	
38.2	34.4	20.9	6.4	

〔全体〕

日常生活において、文字を手書きする機会があるか、それともないかを尋ねた。

「よくある」が38.2%、「時々ある」が34.4%で、両方を合わせた「ある(計)」は72.7%となっている。一方、「ない」が6.4%、「余りない」が20.9%で、両方を合わせた「ない(計)」は27.3%となっている。

年賀状などにおいて、印刷されたものと手書きが加えられたものとはどちらが良いと思うか。〈問15〉(P51)

—「手書きされたものや手書きが一言加えられたもの」が、9割弱。—

(数字は%)

全て印刷されたもの	手書きされたものや手書きが一言加えられたもの	どちらも変わらない	分からない
5.0	87.6	6.6	0.8

〔全体〕

年賀状や挨拶状などにおいて、文字の部分が全て印刷されたものと文字の部分が手書きされたものや手書きが一言加えられたものとは、どちらが良いと思

うかを尋ねた。

「手書きされたものや手書きが一言加えられたもの」が87.6%と最も高く、「全て印刷されたもの」が5.0%、「どちらも変わらない」が6.6%となっている。

文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきであると思うか。〈問16〉(P53)

—「大切にすべきであると思う」が、9割以上。—

(数字は%)

大切にすべきであると思う	大切にすべきであるとは思わない	どちらとも言えない	分からない
91.5	1.6	6.4	0.5

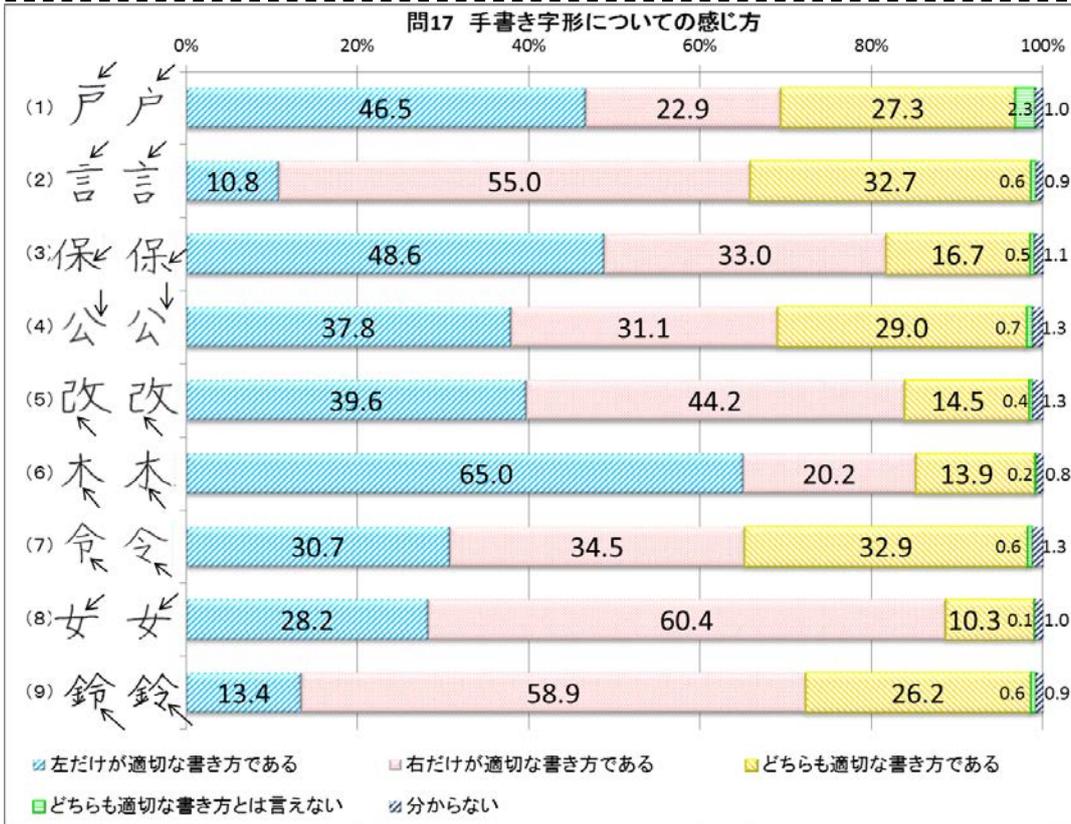
〔全体〕

文字を手書きする習慣は、これからの時代においても大切にすべきであると思うか、それともそうは思わないかを尋ねた。

「大切にすべきであると思う」が91.5%で、「大切にすべきであるとは思わない」(1.6%)の割合を90ポイント上回っている。

手書き文字の漢字の違いについてどう感じるか。〈問17〉(P59)

— 一字の細かい形の違いによって、適切・不適切が生じると感じる回答が多数。 —

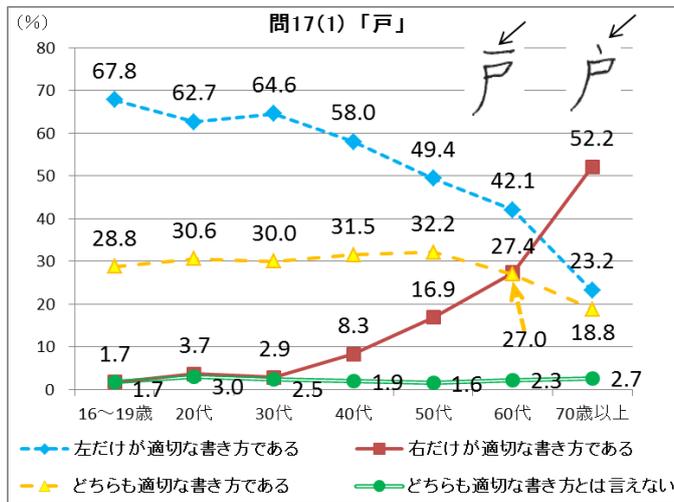


〔全体〕

九つの漢字を挙げて、二つずつ並べた手書きの漢字の矢印の部分について、それぞれ、どのように感じるかを尋ねた。

以下、それぞれの漢字について見ていく。

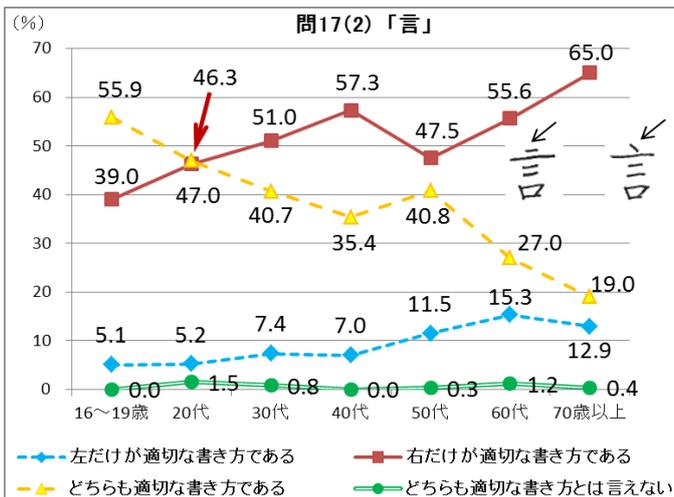
〔年齢別〕



(1) 戸

上部の横棒と点の書き方についてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「左だけが適切な書き方である」の割合が46.5%となっている。

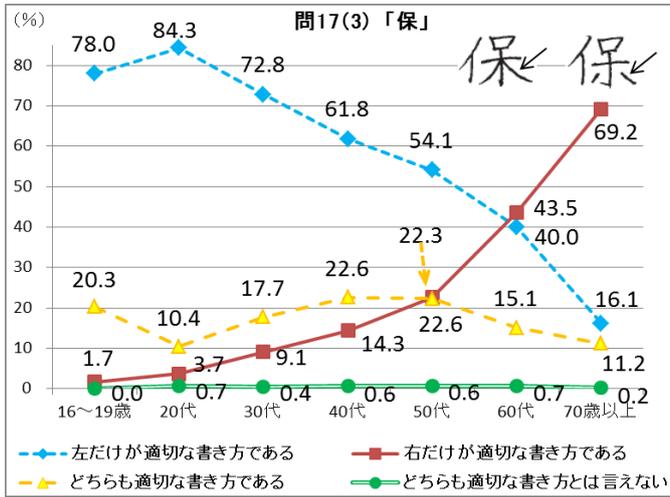
年齢別に見ると、「左だけが適切な書き方である」の割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、30代以下で6割台となっている。一方、「右だけが適切な書き方である」の割合は、年代が高いほど高くなる傾向があり、70歳以上で52.2%となっている。「どちらも適切な書き方である」の割合は、60代以下で3割前後となっている。



(2) 言

上部の横棒と点の書き方についてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「右だけが適切な書き方である」の割合が55.0%、「どちらも適切な書き方である」の割合が32.7%となっている。

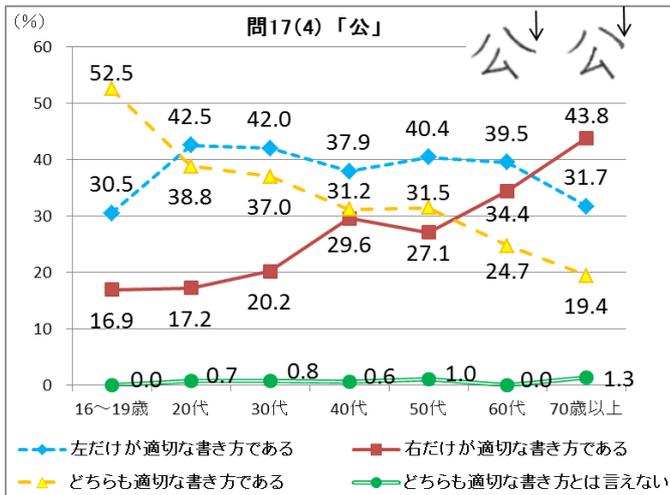
年齢別に見ると、「右だけが適切な書き方である」の割合は、70歳以上で他の年代より高く65.0%となっている。「どちらも適切な書き方である」の割合は、16~19歳で他の年代より高く55.9%となり、20~30代と50代で4割台となっている。



(3) 保保

右下の「木」と「ホ」の形についてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「左だけが適切な書き方である」の割合が48.6%、「右だけが適切な書き方である」の割合が33.0%となっている。

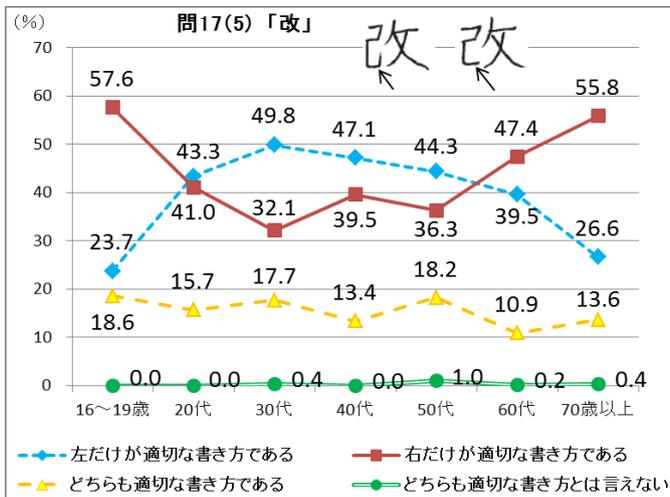
年齢別に見ると、「左だけが適切な書き方である」の割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、20代で最も高く84.3%となっている。一方、「右だけが適切な書き方である」の割合は、年代が高いほど高くなり、70歳以上で69.2%となっている。



(4) 公公

右上の斜めの棒の形（「はらう」か「とめる」か）についてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「左だけが適切な書き方である」の割合が37.8%、「右だけが適切な書き方である」の割合が31.1%、「どちらも適切な書き方である」の割合が29.0%となっている。

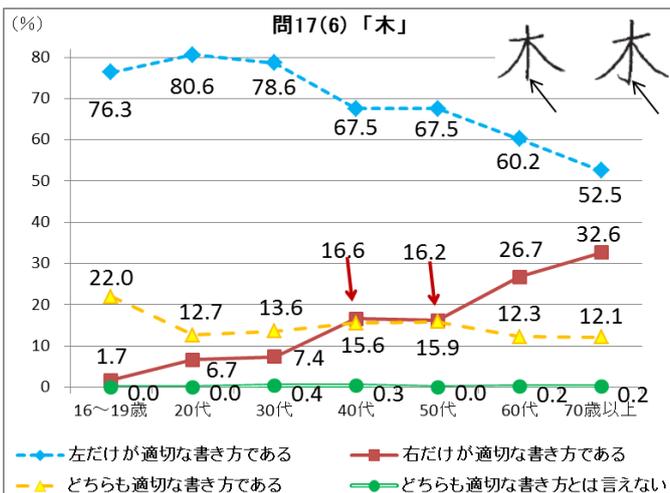
年齢別に見ると、「右だけが適切な書き方である」の割合は、年代が高いほど高くなる傾向がある。「どちらも適切な書き方である」の割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、16~19歳で52.5%となっている。



(5) 改改

左下の部分を「はねる」か「とめる」かについてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「左だけが適切な書き方である」の割合が39.6%、「右だけが適切な書き方である」の割合が44.2%となっている。

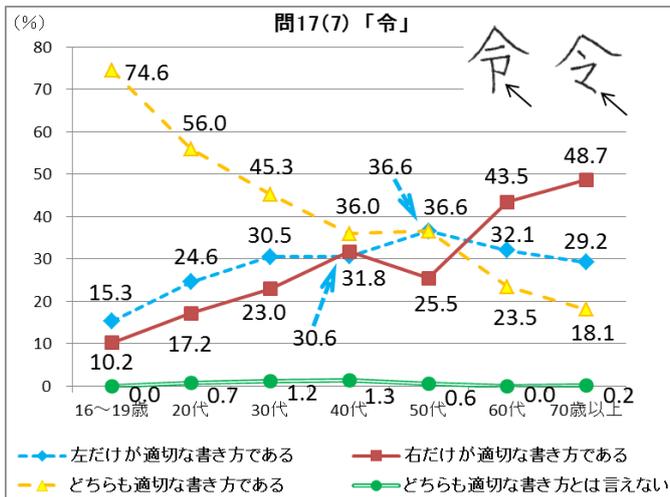
年齢別に見ると、「左だけが適切な書き方である」の割合は、30~40代で他の年代より高く4割台後半となっている。一方、「右だけが適切な書き方である」の割合は、16~19歳と70歳以上で他の年代より高く5割台後半となっている。



(6) 木木

真ん中の縦棒を「はねる」か「とめる」かについてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「左だけが適切な書き方である」の割合が65.0%となっている。

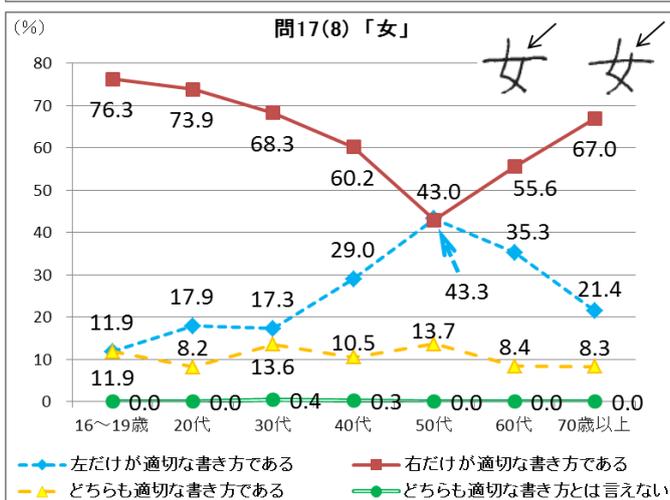
年齢別に見ると、「左だけが適切な書き方である」の割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、20~30代で8割前後となっている。一方、「右だけが適切な書き方である」の割合は、年代が高いほど高くなる傾向があり、70歳以上で32.6%となっている。



(7) 令

「へ」の下にある部分についてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「左だけが適切な書き方である」の割合が30.7%、「右だけが適切な書き方である」の割合が34.5%、「どちらも適切な書き方である」の割合が32.9%となっている。

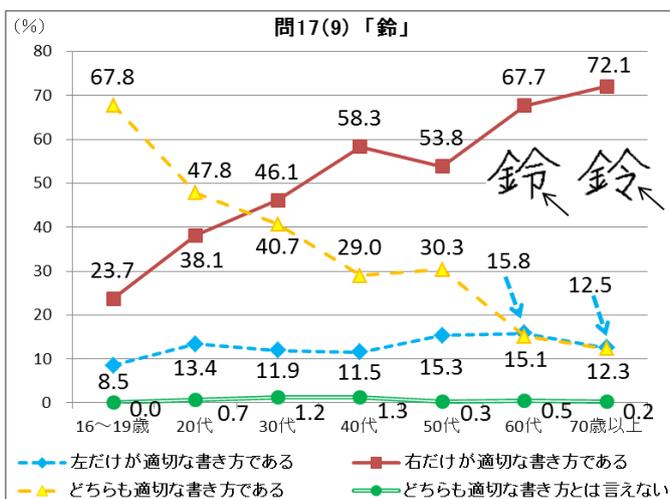
年齢別に見ると、右だけが適切な書き方である」の割合は、年代が高いほど高くなる傾向がある。「どちらも適切な書き方である」の割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、16~19歳で74.6%となっている。



(8) 女

「ノ」の形が横棒の上に出るか出ないかについてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「左だけが適切な書き方である」の割合が28.2%、「右だけが適切な書き方である」の割合が60.4%となっている。

年齢別に見ると、「左だけが適切な書き方である」の割合は、50代で他の年代より高く43.3%となっている。一方、「右だけが適切な書き方である」の割合は、20代以下で他の年代より高く7割台となっている。



(9) 鈴

右側にある「へ」の下にある部分についてどのように感じるかを尋ねた。〔全体〕では、「右だけが適切な書き方である」の割合が58.9%、「どちらも適切な書き方である」の割合が26.2%となっている。

年齢別に見ると、「右だけが適切な書き方である」の割合は、年代が高いほど高くなる傾向がある。「どちらも適切な書き方である」の割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、16~19歳で67.8%となっている。

手書き文字の漢字の正誤についてどう考えるか。<問19> (P68)

—「国の示した目安に沿って、両方とも正答にすべきだと思う」が、6割台半ばと最も高い。—

(数字は%)

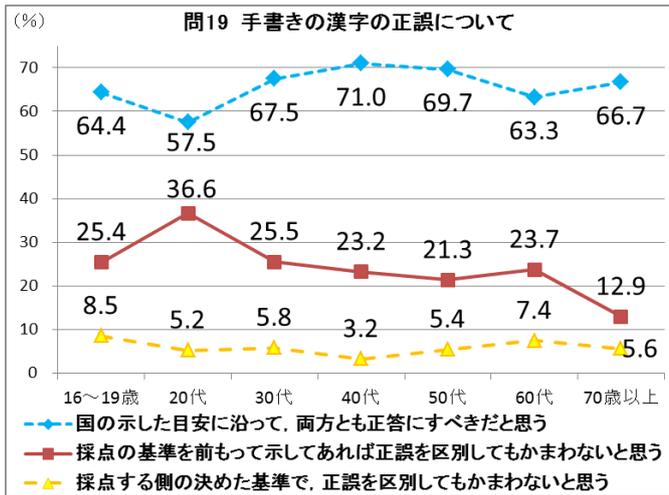
国の示した目安に沿って、両方とも正答にすべきだと思う	試験を受ける人に採点の基準を前もって示してあれば、正誤を区別してもかまわないと思う	試験を受ける人が基準を知っているか否かに関係なく、採点する側の決めた基準で、正誤を区別してもかまわないと思う	分からない
66.5	21.9	5.7	5.9

〔全体〕

問17で二つずつ並べた手書きの九つの漢字は、「常用漢字表」で、どちらの書き方をしてもよいとされているものの一例

であるが、入学試験や入社試験、検定試験などにおいて、このような書き方の違いによって正答になったり誤答とされたりするようなことがあるとしたら、どう考えるかを尋ねた。

「国の示した目安に沿って、両方とも正答にすべきだと思う」の割合が66.5%と最も高い。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、「国の示した目安に沿って、両方とも正答にすべきだと思う」の割合は20代のみ57.5%となっているが、他の年代では6割台半ばから約7割となっている。「試験を受ける人に採点の基準を前もって示してあれば、正誤を区別してもかまわないと思う」の割合は、20代(36.6%)で他の年代より高くなっているが、他の年代では1割台前半から2割台半ばとなっている。

印刷文字と手書き文字の形の違いを知っているか。〈問20〉(P70)

—「知っていた(計)」が、「心」と「令」については7割以上。—

(数字は%)

	知っていた(計)			知らなかった	分からない
	よく知っていた	何となく知っていた			
(1) 衣 - 衣	60.9	25.8	35.0	38.2	0.9
(2) 家 - 家	48.9	23.0	25.9	50.2	0.9
(3) 心 - 心	78.8	48.4	30.4	20.4	0.8
(4) 保 - 保	60.3	28.5	31.8	38.7	1.0
(5) 令 - 令	73.3	41.2	32.1	25.7	0.9

〔全体〕

五つの漢字について、印刷文字と手書きの楷書文字との間で、形に違いが生じる場合があることを知っているか、それぞれ尋ねた。

「よく知っていた」と「何となく知っていた」の割合を合計した「知っていた(計)」の割合は、「(3)心」が78.8%と最も高く、次いで、「(5)令」(73.3%)、「(1)衣」(60.9%)、「(4)保」(60.3%)、「(2)家」(48.9%)となっている。

手書きする際に、印刷文字の形のとおりを書く必要がないことを知っているか。〈問21〉(P72)

—「知らなかった」が、6割台半ば。—

(数字は%)

〔全体〕

知っていた(計)	知っていた		知らなかった	分からない
	よく知っていた	何となく知っていた		
32.2	11.7	20.4	65.7	2.1

印刷文字と手書き文字の形状の違いは、それぞれの表し方の習慣が違うことによるものであり、字体としては同一であるが、近年、窓口などで、書いた文字を活字のとおり書き直すように依頼されることがある。手書きする際には手書きの習慣に従ってよく、印刷文字の形のとおり書く必要はないということを知っているか尋ねた。

「よく知っていた」(11.7%)と「何となく知っていた」(20.4%)を合わせた「知っていた(計)」の割合は32.2%となっている。一方、「知らなかった」の割合は、65.7%となっている。

4 言い方の使用頻度について

使うことのある言い方か。〈問22〉(P74)

—使うことが「ある」と回答した割合は、おおむね増加傾向。—

(数字は%)

		平成26年度	平成16年度	平成11年度
(1)	「わたしはそう思います」を	ある	19.9	15.6
	「わたし的にはそう思います」と言う	ない	79.9	83.9
(2)	「鈴木さんと話をしました」ということを、	ある	17.7	14.6
	「鈴木さんと話とかしてました」と言う	ない	82.0	84.8
(3)	「とても良かった」ということを、	ある	17.5	15.0
	「とても良かったかな、みたいな…」と言って相手の反応を見る	ない	82.2	84.4
(4)	「とてもすばらしい(良い, おいしい, かつこ	ある	26.9	18.2
	いい等も含む)」という意味で「やばい」と言う	ない	72.7	81.4
(5)	いいか悪いかの判断がつかないときに	ある	66.2	57.8
	「微妙(びみょう)」と言う	ない	33.4	41.8
(6)	面倒臭いことや不快感・嫌悪感を表わすときに	ある	20.0	17.0
	「うざい」と言う	ない	79.6	82.6

〔全体〕

会話の中で聞かれる言い方から六つの例を挙げて、それぞれの言い方をすることがあるか、それともないかを尋ねた。

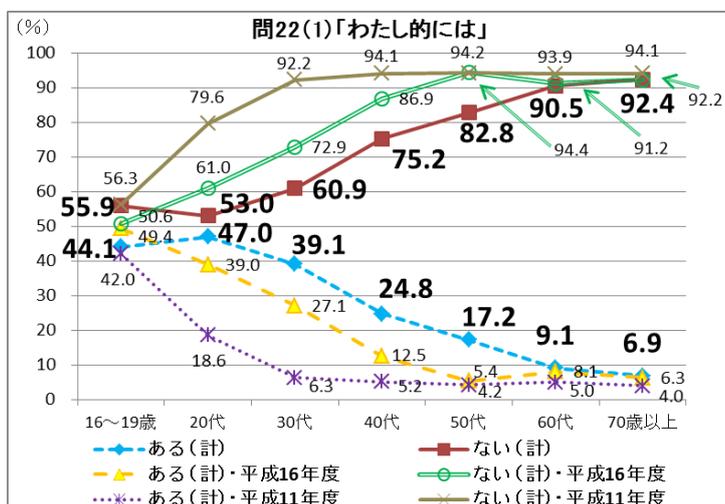
それぞれの下線部について、「ある」の割合を見ると、「(5) 微妙」が66.2%と6割台半ばとなっているが、他の五つの言い方は1割台後半から2割台半ばとなっている。

過去の調査結果(平成11, 16年度)と比較すると、(1)「わたし的には」では、「ある」の割合は、平成11年度調査から16年度調査に掛けて7ポイント増加、今回調査で更に4ポイント増加している。(2)「話とかしてました」では、「ある」の割合は、平成11年度調査から16年度調査に掛けて2ポイント減少したが、今回調査では3ポイント増加している。(3)「良かったかな、みたいな…」では、「ある」の割合は、平成11年度調査から16年度調査に掛けて2ポイント増加、今回調査で更に3ポイント増加している。

同じく、過去の調査結果(平成16年度)と比較すると、(4)「やばい」では、「ある」の割合は9ポイント増加している。(5)「微妙」では、「ある」の割合は8ポイント増加している。(6)「うざい」では、「ある」の割合は3ポイント増加している。

以下、それぞれの言い方について見ていく。

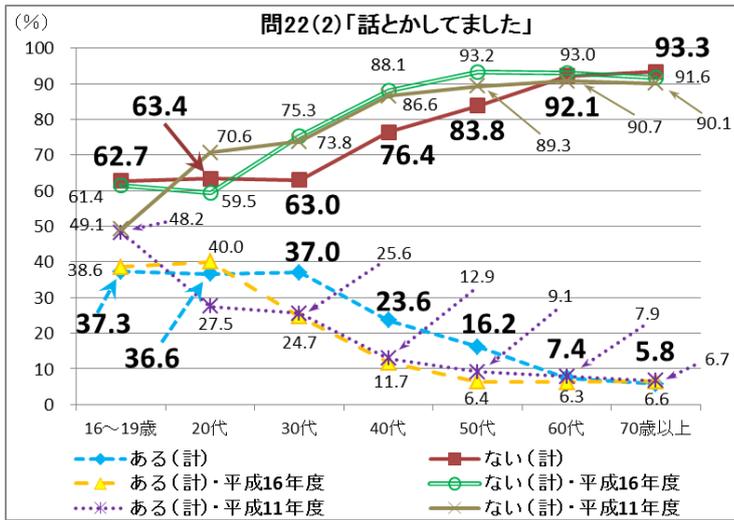
〔年齢別・過去の調査との比較〕



(1) 「わたし的には」

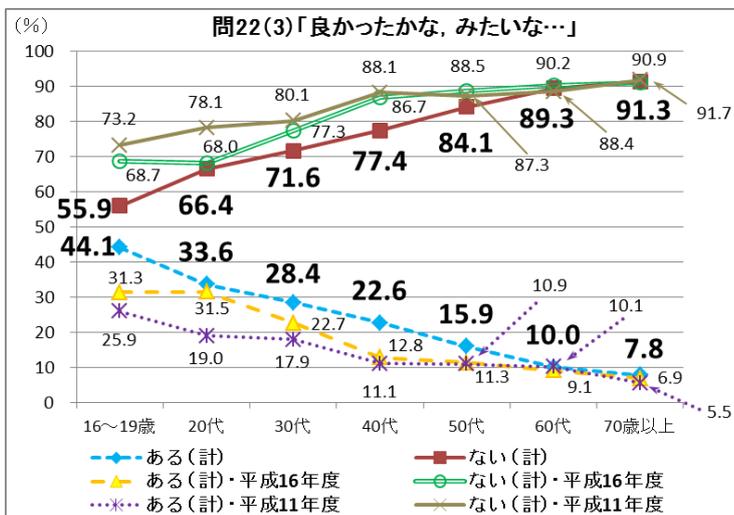
年齢別に見ると、「わたし的には」という言い方をすることが「ある」と回答した割合は、20代で47.0%と最も高くなっている。

過去の調査結果(平成11, 16年度)と比較すると、「ある」の割合は、平成11年度調査から16年度調査に掛けて、20代では20ポイント、30代では21ポイント増加し、今回調査で更に20代では8ポイント、30代では12ポイント増加している。また、40~50代でも、平成16年度調査からそれぞれ12ポイント増加している。



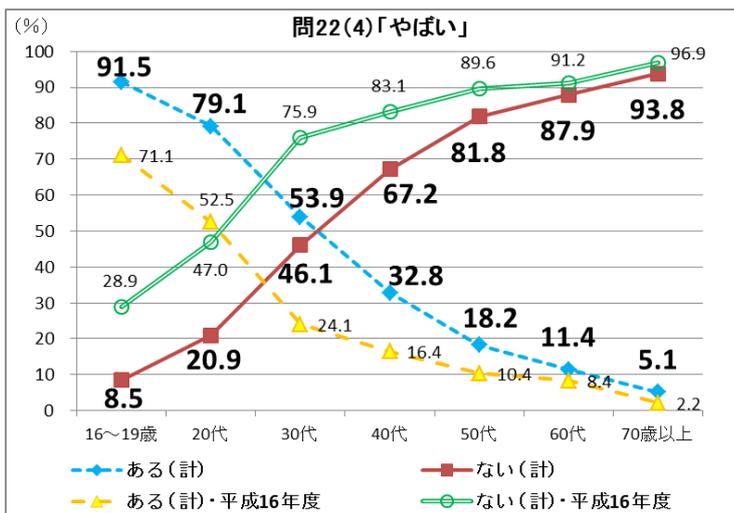
(2) 「話とかしてました」
 年齢別に見ると、「話とかしてました」という言い方をすることが「ある」と回答した割合は、30代以下では3割台後半となっている。

過去の調査結果(平成11, 16年度)と比較すると、「ある」の割合は、16~19歳では減少している。一方、30代~50代では、平成16年度調査から今回調査に掛けて、それぞれ10~12ポイント増加している。



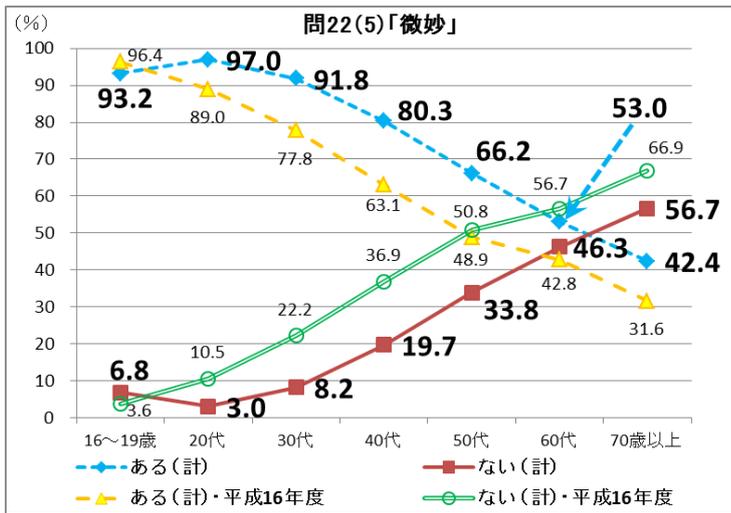
(3) 「良かったかな、みたいな…」
 年齢別に見ると、「良かったかな、みたいな…」という言い方をすることが「ある」と回答した割合は、16~19歳で44.1%と最も高くなっている。

過去の調査結果(平成11, 16年度)と比較すると、「ある」の割合は、16~19歳から40代で、平成11年度調査から今回調査に掛けて、それぞれ11~18ポイント増加している。



(4) 「やばい」
 年齢別に見ると、「とてもすばらしい」という意味で「やばい」という言い方をすることが「ある」と回答した割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、16~19歳で91.5%と最も高く、次いで、20代(79.1%)となっている。

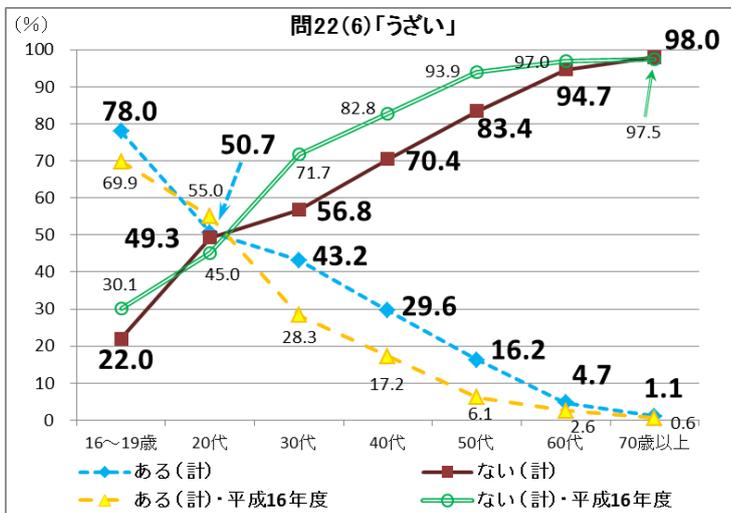
過去の調査結果(平成16年度)と比較すると、「ある」の割合が「ない」の割合を上回っていたのは、平成16年度調査では20代以下であったが、今回調査では30代以下となっている。



(5) 「微妙」

年齢別に見ると、「微妙」という言い方をすることが「ある」と回答した割合は、20代で97.0%と最も高く、次いで、16~19歳(93.2%)、30代(91.8%)で9割台前半となっており、60代(53.0%)で5割台前半、70歳以上(42.4%)でも4割を超えている。

過去の調査結果(平成16年度)と比較すると、「ある」の割合が「ない」の割合を上回っていたのは、平成16年度調査では40代以下であったが、今回調査では60代以下となっている。



(6) 「うざい」

年齢別に見ると、「うざい」という言い方をすることが「ある」と回答した割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、16~19歳で78.0%と最も高くなっているが、20代では5割程度、30代以上では5割未満となっている。

過去の調査結果(平成16年度)と比較すると、「ある」の割合は、20代で4ポイント減少したが、他の全ての年代において、それぞれ1~15ポイント増加した。

5 新しい複合語，省略語について

聞いたことのある言い方が，また使うことのある言い方か。〈問 23〉（P 79）

—「婚活」「デパ地下」「クールビズ」を「聞いたことがある（計）」は，9割以上。—

（数字は％）

〔全体〕

六つの言い方を挙げて，聞いたことがあるか，使うことがあるかを尋ねた。

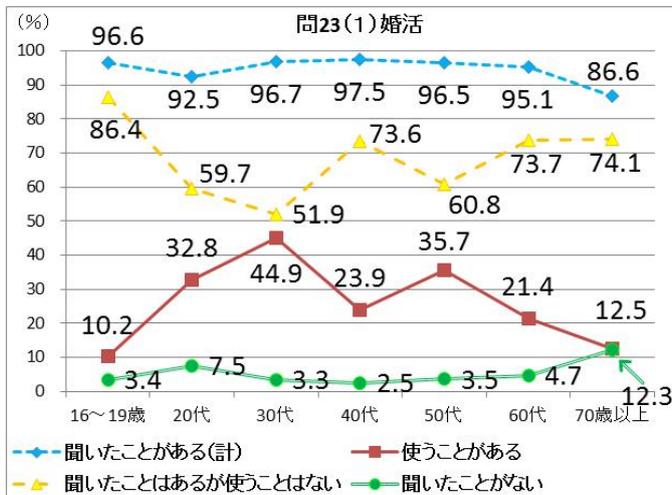
「使うことがある」と「聞いたことがあるが使うことはない」を合わせた「聞いたことがある（計）」の割合は，「（1）婚活」が93.8%と最も高く，以下，割合が高い順に「（4）デパ地下」（92.3%），

「（6）クールビズ」（90.8%），「（2）イクメン」（89.6%），「（3）女子力」（87.1%），「（5）大人買い」（78.6%）となっている。

「使うことがある」の割合は，「（4）デパ地下」が49.7%と最も高く，次いで「（6）クールビズ」（44.1%）となっている。

〔年齢別〕

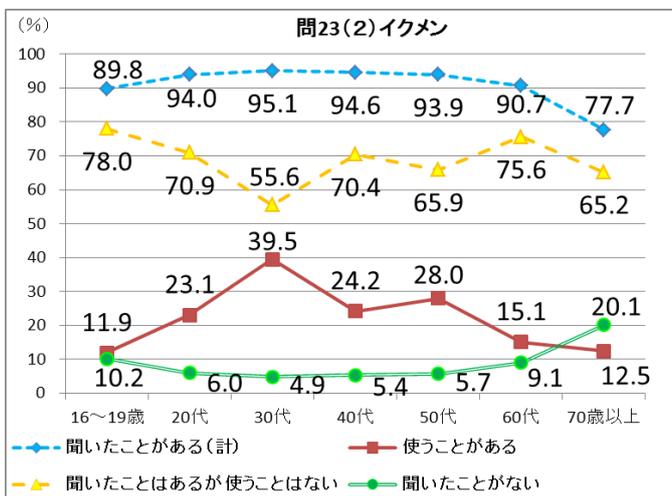
※グラフには，「使うことがある」と「聞いたことはあるが使うことはない」を合わせた「聞いたことがある（計）」も示した。



（1）婚活

年齢別に見ると，「聞いたことがある（計）」の割合は，60代以下で9割台となっている。

「使うことがある」の割合は，30代で44.9%と最も高く，次いで50代（35.7%），20代（32.8%）となっている。一方，「聞いたことはあるが使うことはない」の割合は，16~19歳で86.4%と最も高く，次いで70歳以上（74.1%），60代（73.7%），40代（73.6%）で7割台前半となっている。

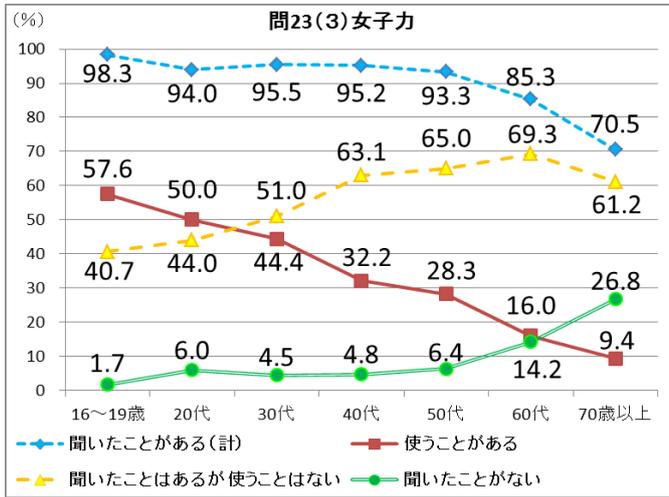


（2）イクメン

年齢別に見ると，「聞いたことがある（計）」の割合は，20代から60代で9割台となっている。

「使うことがある」の割合は，30代で39.5%と最も高くなっている。一方，「聞いたことはあるが使うことはない」の割合は，16~19歳で78.0%と最も高く，次いで60代（75.6%）となっている。

「聞いたことがない」の割合は，70歳以上（20.1%）で他の年代より高くなっている。

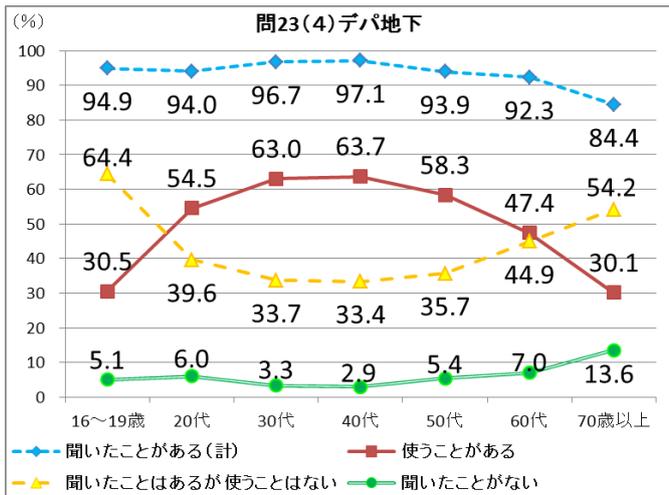


(3) 女子力

「聞いたことがある(計)」の割合は、50代以下で9割台となっている。

「使うことがある」の割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、16~19歳で57.6%と最も高く、次いで20代(50.0%)、30代(44.4%)、40代(32.2%)となっている。一方、「聞いたことはあるが使うことはない」の割合は、60代で69.3%と最も高くなっている。

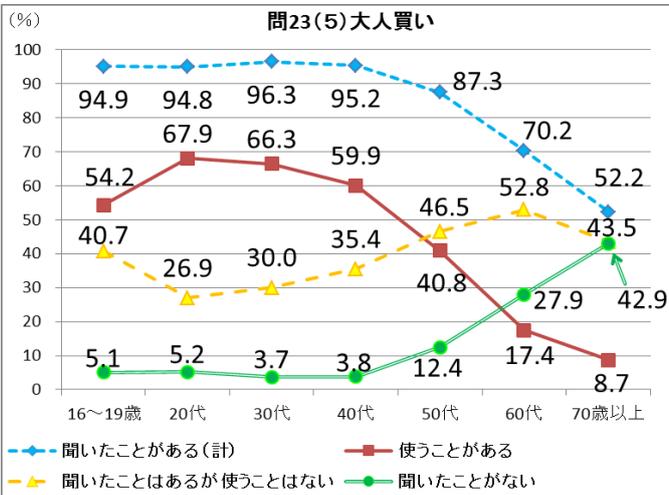
「聞いたことがない」の割合は、70歳以上(26.8%)で他の年代より高くなっている。



(4) デパ地下

「聞いたことがある(計)」の割合は、60代以下で9割台となっている。

「使うことがある」の割合は、30~50代で他の年代より高く5割台後半~6割台前半となっている。一方、「聞いたことはあるが使うことはない」の割合は、16~19歳(64.4%)、70歳以上(54.2%)で他の年代より高くなっている。

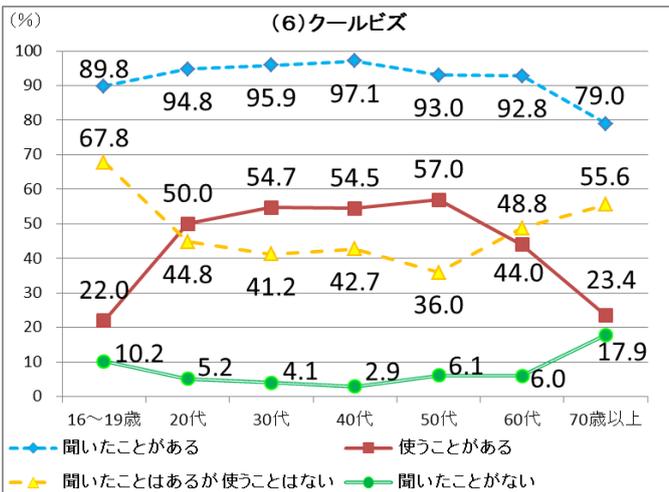


(5) 大人買い

「聞いたことがある(計)」の割合は、40代以下で9割台となっている。

「使うことがある」の割合は、20代で67.9%と最も高く、次いで30代(66.3%)、40代(59.9%)、16~19歳(54.2%)となっている。一方、「聞いたことはあるが使うことはない」の割合は、60代が52.8%と最も高くなっている。

「聞いたことがない」の割合は、70歳以上で42.9%と最も高く、次いで、60代(27.9%)となっている。



(6) クールビズ

「聞いたことがある(計)」の割合は、20代から60代で9割台となっている。

「使うことがある」の割合は、30~50代で5割台半ばとなっている。一方、「聞いたことはあるが使うことはない」の割合は、16~19歳(67.8%)、70歳以上(55.6%)で他の年代より高くなっている。

「聞いたことがない」の割合は、70歳以上(17.9%)で他の年代より高くなっている。

6 慣用句等の意味・言い方について

どちらの意味だと思うか。〈問 24〉 (P82)

—「枯れ木も山のにぎわい」は、本来とは違う意味とされる方を選択した割合が高い。—

(数字は%)

(1) おもむろに		平成26年度
(ア) : ゆっくりと		44.5
(イ) : 不意に		40.8
(ウ) : (ア) と (イ) の両方		3.1
(エ) : (ア) や (イ) とは全く別の意味		6.2
(オ) : 分からない		5.3
(2) 枯れ木も山のにぎわい		平成16年度
(ア) : つまらないものでも無いよりはまし		37.6
(イ) : 人が集まればにぎやかになる		47.2
(ウ) : (ア) と (イ) の両方		4.2
(エ) : (ア) や (イ) とは全く別の意味		3.4
(オ) : 分からない		7.6
		38.6
		35.5
		4.5
		12.1
		9.2
(3) 小春日和		
(ア) : 初冬の頃の、穏やかで暖かな天気		51.7
(イ) : 春先の頃の、穏やかで暖かな天気		41.7
(ウ) : (ア) と (イ) の両方		3.1
(エ) : (ア) や (イ) とは全く別の意味		1.8
(オ) : 分からない		1.8
(4) 天に唾(つば)する		
(ア) : 自分より上位に立つような存在を、冒し汚すような行為をすること		22.0
(イ) : 人に書を与えようとして、結局自分に返ってくるような行為をすること		63.5
(ウ) : (ア) と (イ) の両方		2.6
(エ) : (ア) や (イ) とは全く別の意味		2.3
(オ) : 分からない		9.7

〔全体・過去の調査との比較〕

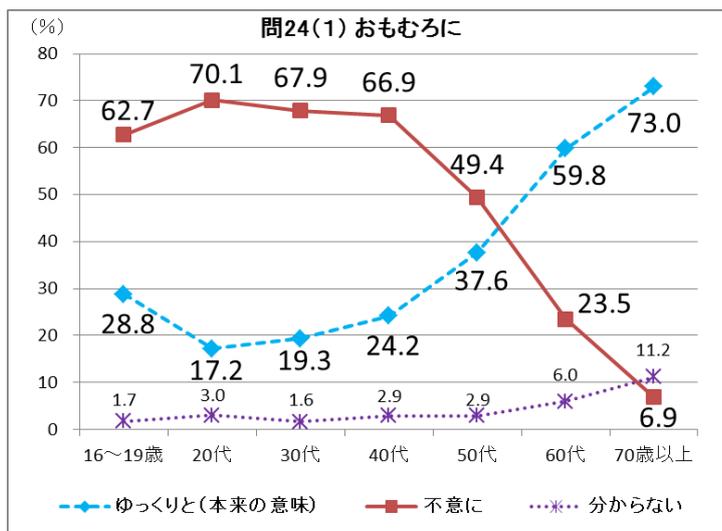
四つの慣用句等を挙げ、どちらの意味だと思うかを尋ねた。なお、辞書等で主に本来の意味とされるものをゴシック体で記した。

今回尋ねた慣用句等のうち、「(2) 枯れ木も山のにぎわい」は、本来とは違う意味とされる方が多く選択されるという結果となっている。

過去の調査結果(平成16年度)と比較すると、「(2) 枯れ木も山のにぎわい」では、本来の意味ではない方を選択した割合が12ポイント増加している。

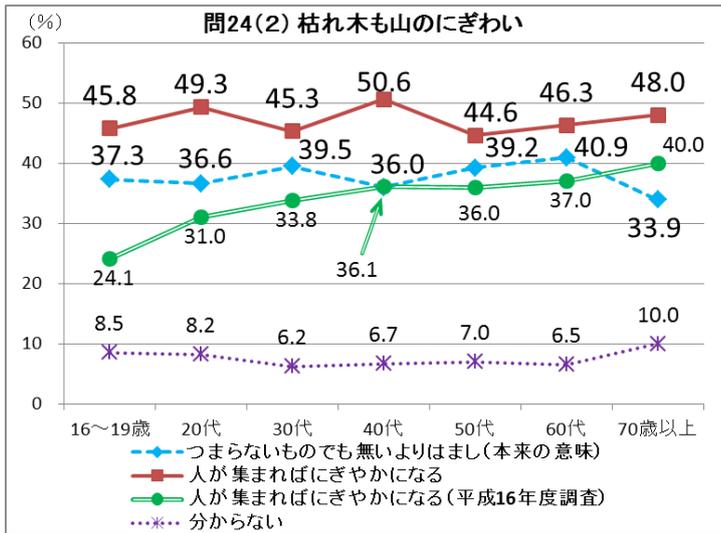
〔年齢別・過去の調査との比較〕

※本来の意味とされるものは点線(---)で表示した。



(1) おもむろに

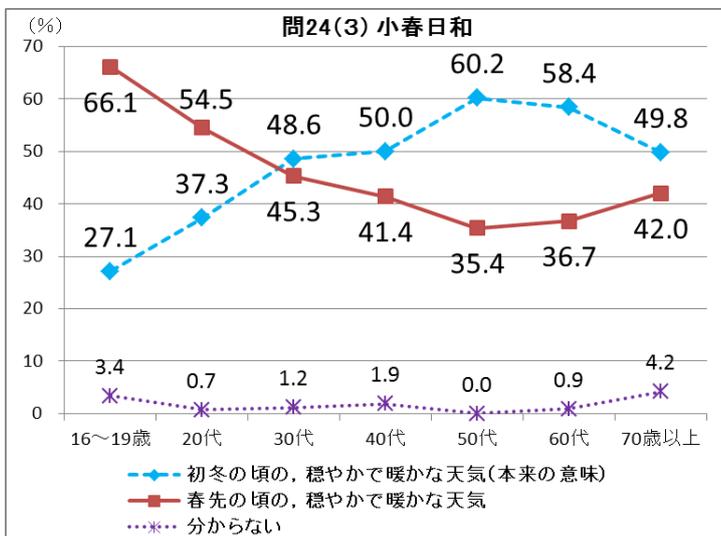
年齢別に見ると、本来の意味とされる「ゆっくりと」の割合は、60代(59.8%)で約6割、70歳以上(73.0%)で7割代前半となり、「不意に」の割合を60代で36ポイント、70歳以上で66ポイントそれぞれ上回っている。50代以下では「不意に」の割合が「ゆっくりと」の割合を上回り、40代以下では「不意に」の割合が6割台前半~約7割となっている。



(2) 枯れ木も山のにぎわい

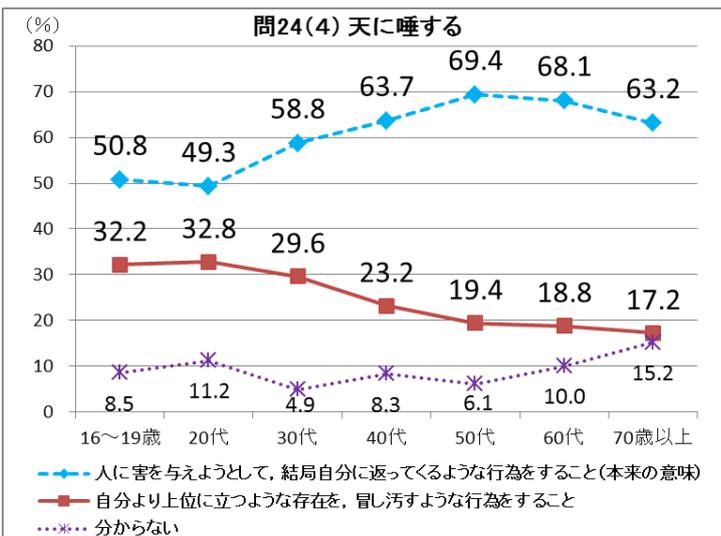
年齢別に見ると、本来の意味とされる「つまらないものでも無いよりはまし」の割合は、全ての年代において3割台から約4割となっている。

過去の調査結果（平成16年度）と比較すると、「人が集まればにぎやかになる」の割合は、全ての年代において8～22ポイント増加している。



(3) 小春日和

年齢別に見ると、本来の意味とされる「初冬の頃の、穏やかで暖かな天気」の割合は50～60代で他の年代より高く、6割前後となっている。「春先の頃の、穏やかで暖かな天気」の割合は、16～19歳で66.1%、20代で54.5%と他の年代より高く5割を超えている。



(4) 天に唾する

年齢別に見ると、本来の意味とされる「人に害を与えようとして、結局自分に返ってくるような行為をすること」の割合は、50～60代で他の年代より高く7割弱となっている。一方、「自分より上位に立つような存在を、冒し汚すような行為をすること」の割合は、30代以下で他の年代より高く3割前後となっている。

どちらの言い方だと思うか。〈問 25〉 (P88)

— 本来の言い方とされる「いやがうえにも」を選択した割合が、「いやがおうにも」より低い。 —

(数字は%)

	平成26年度	平成16年度
(1) 「企業が学生を早い時期に採用すること」を		
(a) 青田買い	47.4	29.1
(b) 青田刈り	31.9	34.2
(a) と (b) の両方とも使う	2.0	3.9
(a) と (b) のどちらも使わない	10.0	22.3
分からない	8.7	10.6
(2) 「夢中になって見境がなくなること」を		
(a) 熱にうなされる	27.1	48.3
(b) 熱にうかされる	57.2	35.6
(a) と (b) の両方とも使う	0.9	1.9
(a) と (b) のどちらも使わない	10.4	10.5
分からない	4.4	3.7
(3) 「いよいよ、ますます」を		
(a) いやがおうにも	42.2	
(b) いやがうえにも	34.9	
(a) と (b) の両方とも使う	3.8	
(a) と (b) のどちらも使わない	13.9	
分からない	5.3	
(4) 「心配や不安を感じ、表情に出すこと」を		
(a) 眉をひそめる	44.5	
(b) 眉をしかめる	44.5	
(a) と (b) の両方とも使う	3.2	
(a) と (b) のどちらも使わない	6.0	
分からない	1.8	

〔全体・過去の調査との比較〕

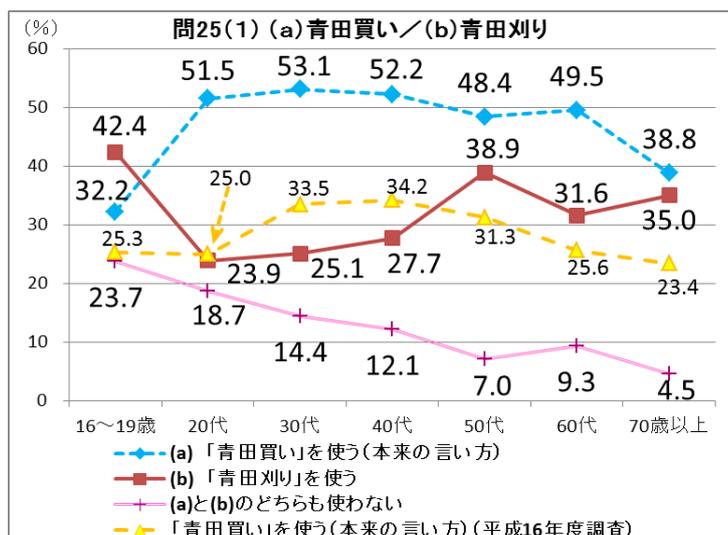
四つの慣用句等を挙げ、どちらの言い方を使うかを尋ねた。なお、辞書等で主に本来の言い方とされるものをゴシック体で記した。

今回尋ねた四つの慣用句等のうち、本来の言い方ではない「(3) (a) いやがおうにも」が、本来の言い方とされる「(3) (b) いやがうえにも」より多く選択されるという結果となっている。また、本来の言い方とされる「(4) (a) 眉をひそめる」と本来の言い方ではない「(4) (b) 眉をしかめる」は、同じ割合となっている。

過去の調査結果（(1) は平成16年度、(2) は平成18年度）と比較すると、(1) では、本来の使い方とされる「青田買い」を選択した割合が18ポイント増加し、「どちらも使わない」が12ポイント減少している。(2) では、本来の使い方とされる「熱にうかされる」を選択した割合が22ポイント増加している。

〔年齢別・過去の調査との比較〕

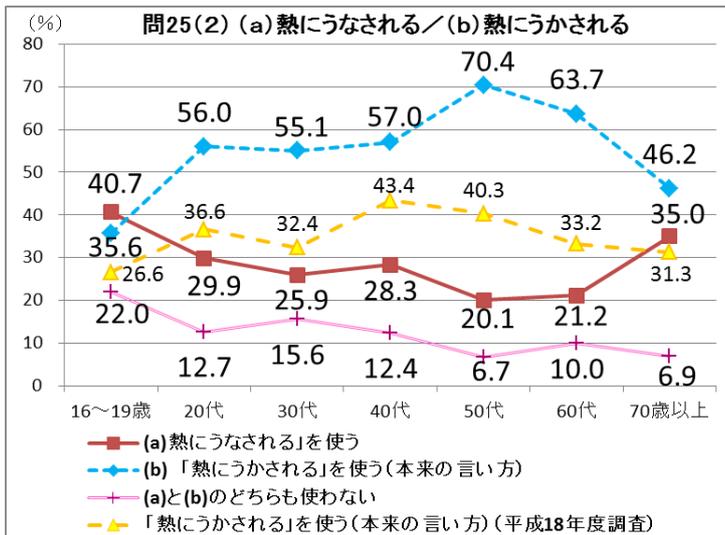
※本来の言い方とされるものは点線（---）で表示した。



(1) 青田買い / 青田刈り

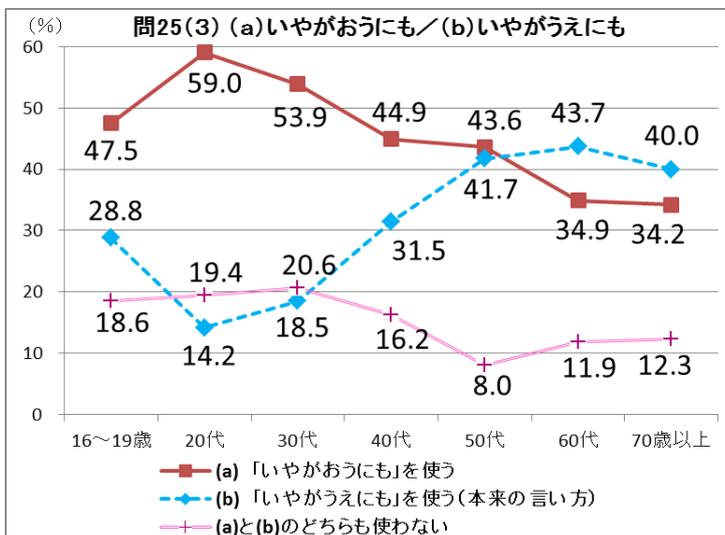
年齢別に見ると、本来の言い方とされる「青田買い」の割合は20~60代で5割前後となっているが、16~19歳と70歳以上で3割台となっている。また、16~19歳では、「青田刈り」(42.4%)の割合が、本来の言い方とされる「青田買い」(32.2%)を10ポイント上回っている。

過去の調査結果(平成16年度)と比較すると、「青田買い」の割合は、全ての年代で前回よりも高くなっている。特に20代で27ポイント高くなっている。

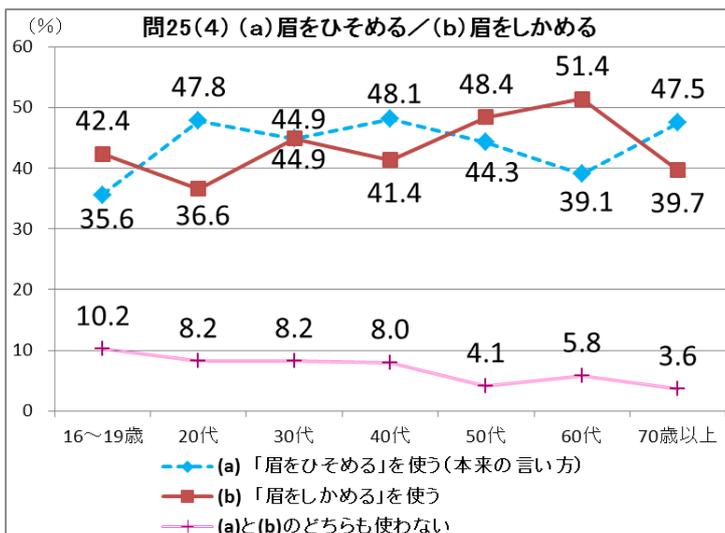


(2) 熱にうなされる／熱にうかされる
 年齢別に見ると、本来の言い方とされる「熱にうかされる」の割合は50～60代で他の年代より高く6割を超えている。「熱にうなされる」の割合は16～19歳で4割強となり、本来の言い方とされる「熱にうかされる」を5ポイント上回っている。

過去の調査結果(平成18年度)と比較すると、「熱にうかされる」の割合が、全ての年代で前回よりも高くなっている。特に60代で31ポイント、50代で30ポイント、それぞれ高くなっている。



(3) いやがおうにも／いやがうえにも
 年齢別に見ると、本来の言い方とされる「いやがうえにも」の割合は50代以上で他の年代より高く4割台前半となっている。一方、「いやがおうにも」の割合は20～30代で他の年代より高く5割台となっている。また、「(a)と(b)のどちらも使わない」の割合は30代以下で他の年代より高く2割前後となっている。



(4) 眉をひそめる／眉をしかめる
 年齢別に見ると、本来の言い方とされる「眉をひそめる」の割合は20代、40代、70歳以上で4割台後半となっているのに対し、16～19歳と60代で3割台後半となっている。一方、「眉をしかめる」の割合は50～60代で他の年代より高く5割前後となっている。